別紙１－１

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※　甲　第　号

氏　　名　坪井　理恵

論　文　題　目

Experiences and hidden needs of older patients, their families and their physicians in palliative chemotherapy decision-making: a qualitative study

（高齢がん患者の化学療法の意思決定における患者、家族、医師の経験と隠れたニーズ）

論文審査担当者　　名古屋大学教授

主　査　　委員　八木　哲也

名古屋大学教授

委員　尾崎　紀夫

名古屋大学教授

委員　葛谷　雅文

名古屋大学教授

指導教授　安藤　雄一

別紙１－２

論文審査の結果の要旨

今回、高齢進行がん患者とその家族、主治医が緩和化学療法の意思決定を行う際の経験や隠れたニーズが明らかにされた。個別インタビュー内容に質的分析を行い（１）医師のパターナリズムの重視（２）深刻な知らせについてのコミュニケーション（３）スピリチュアルケア（４）チームで支える、以上の４テーマが同定された。患者と家族が自己決定への不安から医師の父権的態度を期待する一方で、医師は高齢者のがん治療エビデンスの不足やコミュニケーションに困難を感じており、多職種アプローチやアセスメントツールを使用した意思決定支援の必要性が示唆された。また高齢患者と家族の隠れた精神的ケアニーズが明らかになり、診断時からの医療者の積極的な介入の必要性が示唆された。

本研究に対し、以下の点を議論した。

１．意思決定過程における高齢者と若年者の相違点について、過去の研究結果から若年者は情報ニーズが多く積極的な治療を望み、意思決定参加の希望が強い傾向がある事がわかっている。一方で病期によっては、早期ほど意思決定への参加は積極的になり、進行期ほど受容的になる。進行期には若年者と高齢者の差異は縮まり両者のニーズは類似してくるが、高齢者の「パターナリズム指向」は進行期でもなお保たれる。これは本研究の結果とも一致している。

２．今回の研究結果を実臨床で生かすには、高齢者には「信頼できる医師に任せたい」というニーズがある事を理解し、彼らの希望を個別に十分に聞き取りつつ、信頼関係を築く努力をする。高齢者の多様性を包括的にアセスメントするには、本来は治療意思決定前に全例行う事が望ましいが、主治医が限られた時間とマンパワーの中で行うのは難しい。従って、タブレット入力形式で簡便化する、看護師や事務職員が定形的ツールを用いて問診する等の方法は検討の余地がある。また見逃されがちなスピリチュアルケアについては、緩和ケアチームや化学療法室の看護師など、主治医の他に患者や家族と接する機会が多い医療者が積極的に介入する事が有用と考えられる。

３．今回の研究は対象患者に多様性があり、研究の再現性を確保するという点では課題がある。本研究に参加した患者は、事前に Cancer specific geriatric assessment (CSGA:がん高齢者機能評価)を行い、身体精神機能に脆弱性が無い事が確認されており「身体的/精神的/社会背景に脆弱性が無い」という点で一致した集団である。しかしながら性別や婚姻状態、既往歴（他に致死的疾患の経験があるか）、家族関係等の背景因子によっても意思決定過程は影響を受けると予想され、これらの背景因子を揃えた研究も今後必要である。また家族の経験も患者との関係によって異なる事が予想され、配偶者/同胞/子世代等に分けた分析も必要であると考えられる。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

別紙2

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第　　号	氏　名	坪井　理恵
試験担当者	主査　八木　哲也 副査2　葛谷　雅文	副査1　尾崎　紀夫 指導教授　安藤　雄一	

（試験の結果の要旨）

主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。

1．高齢者と若年者の意思決定の相違性について
2．臨床における高齢がん患者の意思決定支援について
3．高齢がん患者の多様性について

以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、化学療法学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。